

第9回全国タナゴサミット in 栗原市

産卵期にオスはきれいな婚姻色に染まり、メスは二枚貝に産卵するという独特の生態を持つタナゴ類。かつて、私たちのもっとも身近に生息するコイ科魚類でした。しかし現在、多くの種が、河川改修、農業の変化や外来生物の異常繁殖などによって絶滅の危機にさらされています。「全国タナゴサミット」は、全国各地におけるタナゴ類の現状や保全活動について情報・意見交換を行う場として2005年にスタートしました。

会場の近く、宮城県伊豆沼・内沼ではかつて、幻のタナゴといわれたゼニタナゴが大量に生息していましたが、2000年ごろまでに姿を消しました。2003年に「ゼニタナゴ復活プロジェクト」が始動し、その15年の成果が見え始めています。最近ではさらに、同じく長らく幻であったマタナゴ（タナゴ）の復活の兆しも見えてまいりました。今回はその成果を紹介するとともに、各地からの報告をいただき、タナゴ類を中心とした人里の自然再生を考える場にしたいと思います。

タナゴ類や自然環境に興味のある方なら、どなたでも自由に参加可能です。皆さんの参加をお待ちしています！

【開催日】 2019年・11月30日（土）～12月1日（日）

【会場】 くりはら交流プラザ エポカ 21 コンベンションホール

宮城県栗原市志波姫新熊谷 279-2（東北新幹線くりこま高原駅すぐ）

【主なプログラム】

11月30日 12:30 開会

基調講演

森 誠一（岐阜協立大学）

淡水魚保全の実態と課題：タナゴとトゲウオを中心に

古本哲史（スイゲンゼニタナゴを守る市民の会）

スイゲンゼニタナゴの継代飼育とその課題

加納義彦（ニッポンバラタナゴ高安研究会）

高安の里におけるニッポンバラタナゴの生息環境を保全するための地域づくり

北島淳也（東海タナゴ研究会）

里川保全のための環境心理学的アクションリサーチ

各地からの報告

演題募集中（詳細については後日改めてご案内いたします）

懇親会（情報交換会）

12月1日

エクスカーション 9:00～12:00 ごろまで（流れ解散）

伊豆沼での定置網漁獲物調査

ブラックバス駆除の進展により帰ってきたコイ科魚類などをご覧ください

【主催】 （一社）水生生物保全協会、東海タナゴ研究会、タナゴ集会

【後援】 栗原市、栗原市教育委員会

【協力】 （公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

【参加者募集】（締切延長）

定員 120名 空席があれば当日参加も可能です

参加費 500円 当日お支払いください

一般講演募集 10題程度 質疑込15分 多数の場合ポスター発表をお願いすることがあります
講演要旨を添えてメールでお申し込みください

締切 2019年~~10月31日~~ 11月15日

お申込み、お問い合わせ (一社)水生生物保全協会

botejako@jcom.zaq.ne.jp

懇親会費（情報交換会） 5,500円 当日参加は原則不可

締切 2019年~~10月31日~~ 11月15日



会場周辺図

会場はホテル（エポカ）のコンベンションホールです。会場のあるホテルのほかには、周辺に宿泊施設はありません。最も近いところ（伊豆沼交流センター）で、直線距離で2.7kmはなれています。